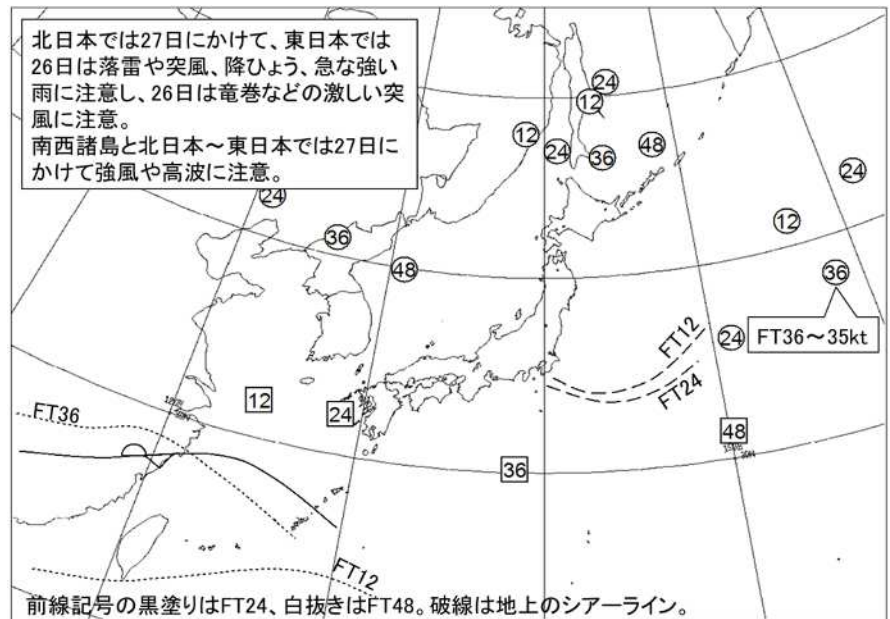


1. 実況上の着目点

- ① 沿海州付近の 500hPa 5340m には -33°C 以下の寒気を伴う寒冷渦があって東進。この寒冷渦からのびる 5400m 付近のトラフに対応した低気圧がサハリン付近にあって北東進。また、別のトラフが中国東北区～朝鮮半島付近にあって南東進している。
- ② 500hPa 5760m 付近の強風軸に対応した前線が沖縄の南にのびている。
- ③ 東シナ海には高気圧があって東南東へ移動。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の寒冷渦は東進して、27日にはオホーツク海へ進む。1項①の中国東北区～朝鮮半島付近のトラフは南東進して26日午後には北日本～東日本を通過する。また、関東の東～日本の東にかけて地上のシアーラインがのびる。この寒冷渦やトラフの通過に伴って北日本の 500hPa には -33°C 以下の、東日本の 500hPa には -30°C 以下の、この時期としては強い寒気が流入することに加え、シアーラインに向かう下層暖湿気や日中の昇温の影響により北日本では27日にかけて、東日本では26日は広い範囲で大気の状態が不安定となり、局地的には非常に不安定となる。落雷、竜巻などの激しい突風、降ひょう、急な強い雨、天気急変に注意。
- ② 1項②の前線は26日夜にかけて次第に不明瞭となる。一方、27日には 500hPa 5760m 付近の強風軸に対応した前線が華中～南西諸島付近で顕在化し、28日には前線上に低気圧が発生して東進する。前線や低気圧に向かって 850hPa 336K 以上の下層暖湿気が流入するため、南西諸島を中心に28日は大気の状態が不安定となり激しい雨の降る所がある。土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水、落雷、突風に注意。
- ③ 28日には 500hPa 5340m 付近の寒冷渦が中国東北区から日本海へ南東進し、この寒冷渦に対応する低気圧が28日には発達しながら日本海に進む。上空の寒気や低気圧に向かって、下層暖湿気が流入するため、28日は北日本～東日本で大気の状態が不安定となる所がある。落雷、突風、降ひょうに注意。
- ④ 1項①の低気圧と1項③の高気圧との間で気圧の傾きが大きくなり、強い風が吹いて、波の高くなる所がある。27日にかけて北日本～東日本では強風や高波に、南西諸島では高波に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項【量的予報等】 ① 雨量 (06時から24時間) : 多い所 (100mm以上) はない。

② 波浪 (明日まで) : 北海道・伊豆諸島3m。③ 高潮 (明日まで) : 大潮の時期。西日本では注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 「雷と突風及び降ひょうに関する全般気象情報」を05時頃に発表予定。